

八戸環状線

残る3工区整備着々

子ども対象、現場で見学会

青森県が八戸市で整備を進める主要地方道八戸環状線(3・3・8白銀市川環状線、総延長約21・0キロ)は、2032年度までの完成に向けて着々と進んでいる。16・3キロと全体の8割近くが開通済みで、

残る3工区で順調に工事が進み、各交通拠点へのアクセス向上につながることを期待される。24日は天久岱2期工区(2・5キロ)の工事現場で市内の子どもたちを対象とした見学会が開かれ、重機で土を運び出す様

子などを確認した。県は、天久岱2期工区を27年度までに、市川2期工区(880メートル)と尻内工区(1・34キロ)を32年度までに完成する目標を掲げている。

道路を管理する県三八地



着々と工事が進む八戸環状線天久岱2期工区
24日、八戸市尻内町

域民局によると、23年度末時点の進捗率は天久岱2期工区が8割、尻内工区が7割で、22年度に事業着手した市川2期工区は本年度設計調査に向けた用地測量を進めているという。

事業の進行状況について、担当者は「現場条件によってそれぞれ課題はあるが、クリアしながら進めている」とし、おおむね順調であるとの見解を示した。この日の見学会は、天久岱2期工区北側の360メートルを施工する穂積建設工業(同市)が実施。放課後デイサービスの「ミライフルキッズデイサービス八戸中居林」(同市)に通所する9人を現場に招き、大型重機で土質改良して運び出す様子などを紹介した。

(田村祐子)